

# 平成27年度 地産地消コーディネーター 育成研修会 開催報告 (暫定版)



- 開催日時：平成28年1月14日（木）～15日（金）
- 開催場所：長野県松本市、朝日村  
1日目 ホテルモンターニュ松本2階「グランドフルール」  
2日目 朝日村立朝日小学校
- 参加人数：107名（現地研修57名）
- 実施プログラム（敬称略）

## 第1日目 1月14日（木）

- 10:00 開会・挨拶  
(一財)都市農山漁村交流活性化機構 専務理事 山野昭二
- 10:10 話題提供(20分)  
長野県農政部農業政策課農産物マーケティング室の取組み  
長野県農政部農業政策課農産物マーケティング室 企画幹 長谷川正之
- 10:30 講演①(30分)  
地産地消の学校給食を進める地産地消コーディネーターの役割  
佐賀県唐津市立浜玉中学校 栄養教諭 福山隆志
- 11:10 講演②(30分)  
地産地消の学校給食を進めるための仕組みづくり～地域との連携をとおして～  
長野県中野市南部学校給食センター 栄養教諭 小林晴江



長野県 農産物マーケティング室  
企画幹 長谷川正之 氏



佐賀県 唐津市立浜玉中学校  
栄養教諭 福山隆志 氏



中野市南部学校給食センター  
栄養教諭 小林晴江 氏

13:00 地産地消コーディネーターの活動紹介（各20分）

- ①生産者組織 東京都日野市 農業者 小林和男
- ②中間組織 塩尻市農業公社 農産物流通コーディネーター 村上かほり
- ③栄養教諭 朝日村立朝日小学校 栄養教諭 杉木悦子

小林さん（右）は食材供給側である生産者の立場、村上さん（中）は、学校給食と生産現場を繋ぐ中間の組織の立場、杉木先生（左）は、地場食材を活用する栄養教諭の立場、と、それぞれの立場での仕事や役割についてお話を伺いました。



東京都 日野市  
農業者 小林和男 氏



塩尻市農業公社  
農産物流通コーディネーター 村上かほり氏



朝日村立朝日小学校  
栄養教諭 杉木悦子 氏

14:30 ワークショップ（135分）

全体テーマ：学校給食への地場食材の活用・調達について

A班 センター方式による地場食材活用・調達について

B班 自校調理方式による地場食材活用・調達について

16:45 全体発表・質疑応答（60分）

コーディネーター 食ジャーナリスト

金丸弘美

アドバイザー (株)山際食彩工房 代表

山際博美

17:45 1日目終了



ワークショップは8班に分かれて行いました。それぞれの班において、事前に参加者からいただいた、「学校給食への地場食材の活用・調達」に関する課題を元に、それぞれが抱える課題を発言しあい、その解決方法について話し合いを行いました。

## 参加者からの課題

### 課題1

地産地消の学校給食を進めるための、学校給食側と生産・供給側の推進体制づくり

- ・地産地消の学校給食を進める目的とは
- ・安定的に地場食材を供給するためには、どのような体制づくりが必要か
- ・有効的な意見交換の場づくりとは 等

### 課題2

学校給食への供給（納入）の仕組みづくり

- ・地場産食材の発見・確保
- ・価格の決定
- ・納入の規格づくり
- ・品質の確保
- ・運搬の方法（運搬にかかる人員など）
- ・精算の方法 等

### 課題3

地場産食材の確保について

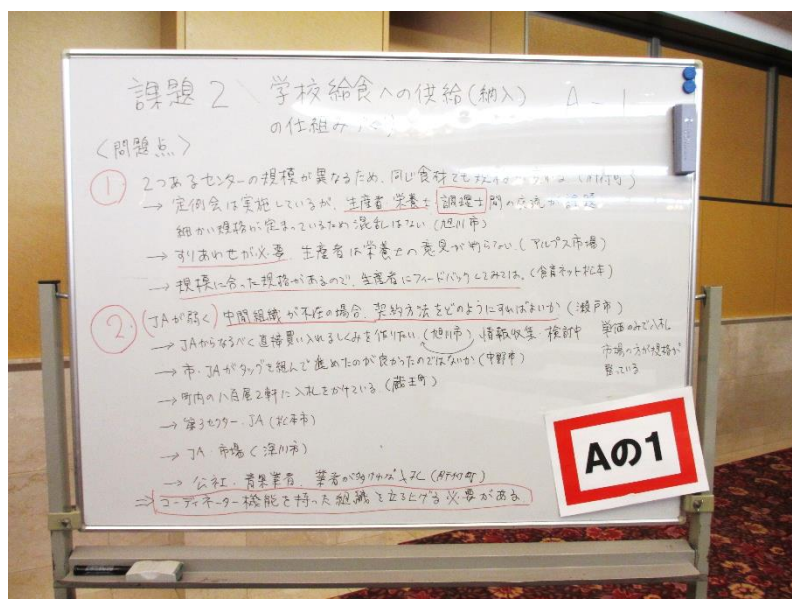
- ・学校給食に必要な量が揃わない
- ・農地が少なく、地場産食材が少ない
- ・地場産野菜の採れない時期の対応
- ・生産者の高齢化への対応 等



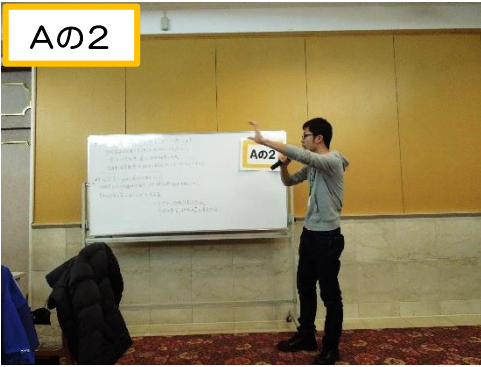
### Aの1



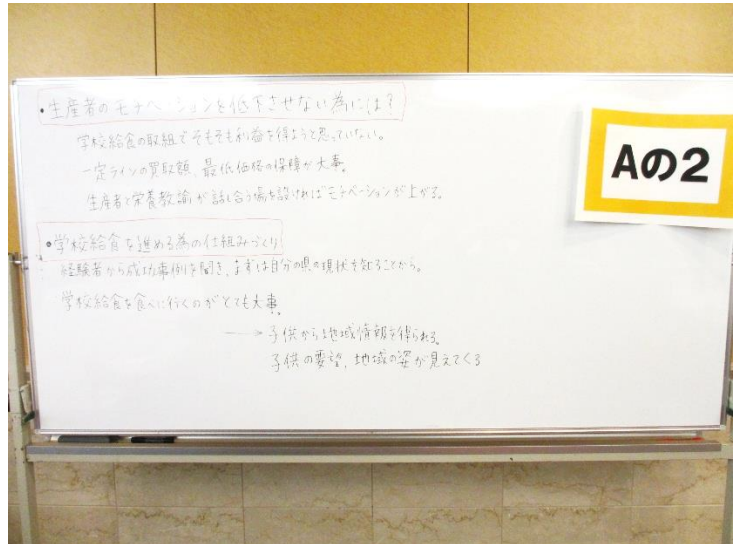
Aの1では、センターの規模が異なるため、同じ食材でも規格が変わる、中間組織が不在の場合、契約方法をどうすれば良いか等について話し合い、コーディネーター機能を持つ組織の必要性を確認しました。



## Aの2



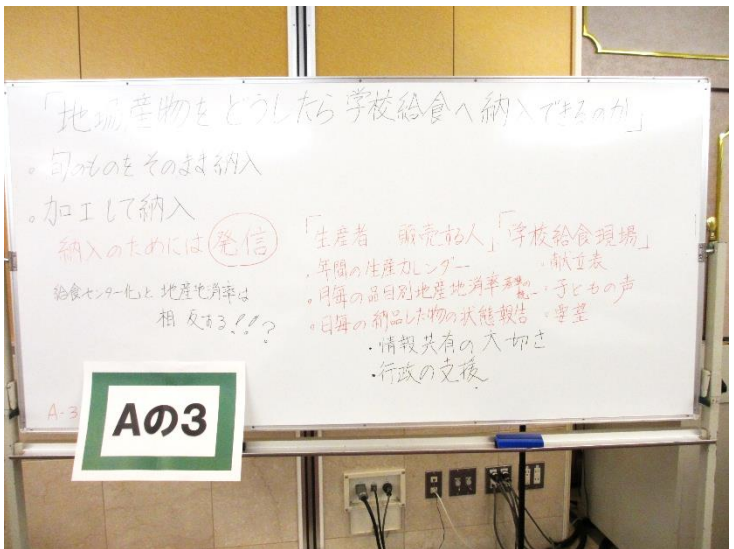
Aの2では、生産者のモチベーションを低下させない方法や、学校給食を進めるための仕組みづくりについて話し合い、生産者と栄養教諭の話し合いの場を持ってお互いを理解することを確認しました。



## Aの3



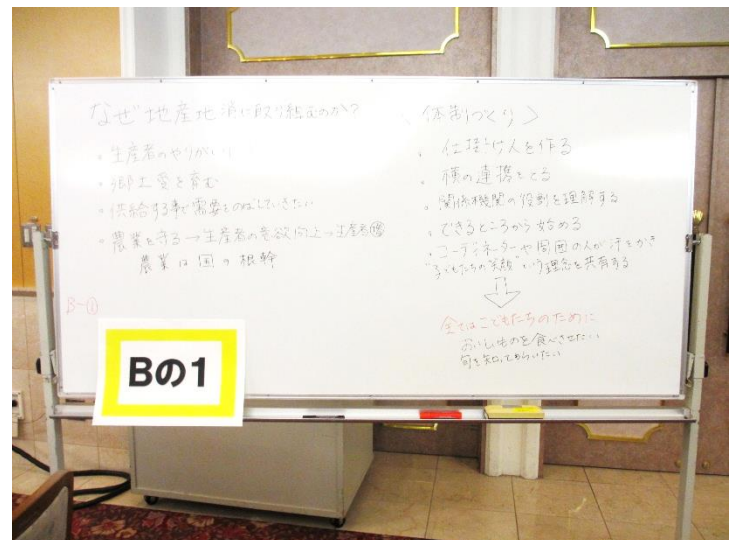
Aの3では、地場産物をどうしたら学校給食へ納入できるかについて、加工して納入するなど具体的な方法や、生産者、学校給食現場での情報共有の大切さ、行政の支援等について話し合われました。



## Bの1



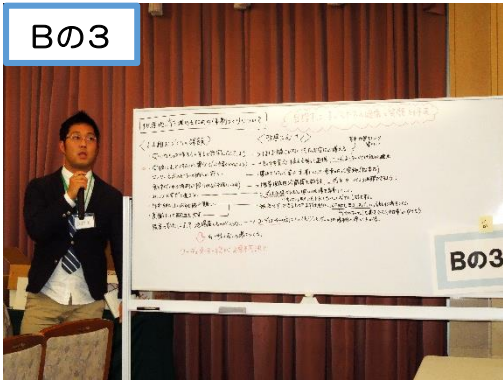
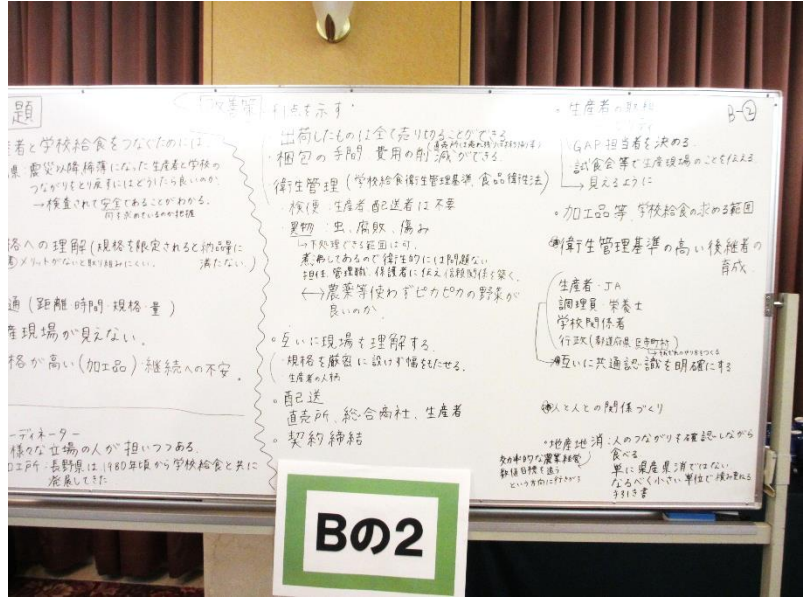
Bの1では、生産者、栄養教諭、行政等それぞれの立場から、地産地消に取り組む意義・意味、学校給食へ地場食材を活用する体制づくり等について話し合い、「全ては子どもたちのため」とまとめました。





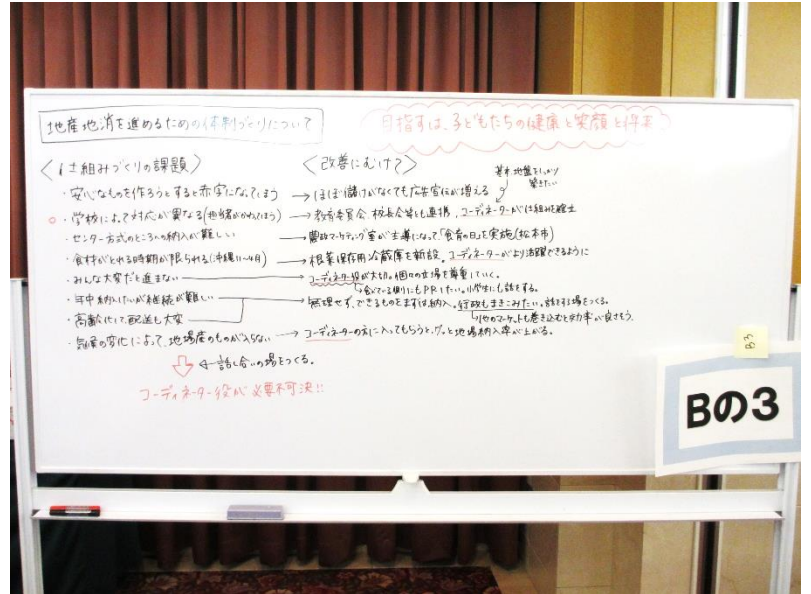
**Bの2**

Bの2では、生産者と学校給食をつなぐための改善策について、現状で抱える課題を話し合う中で、お互いの現場を理解しあい、人と人の関係を作りながら、それぞれが改善・対応できることを確認しました。



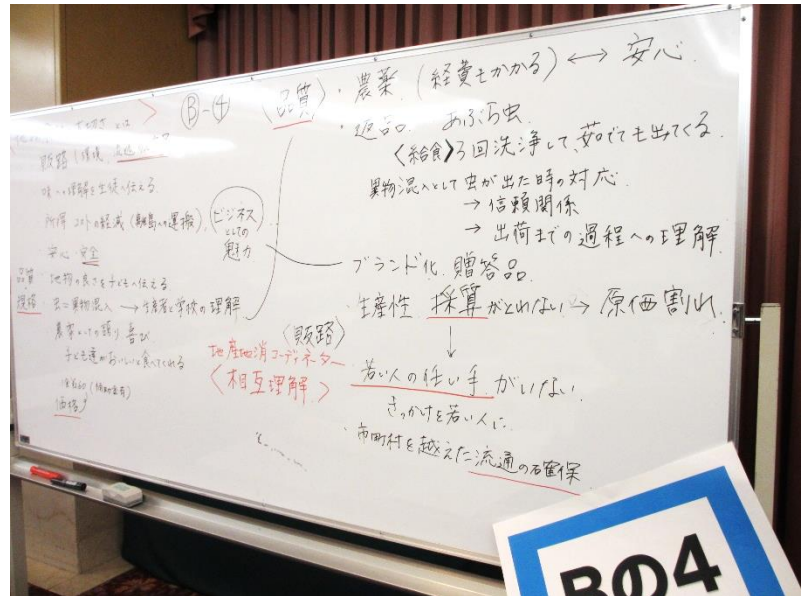
**Bの3**

Bの3では、地産地消を進めるための体制づくりの課題に対する改善点について話し合い、コーディネーターの存在の必要性を確認し、目指すは子ども達の健康と笑顔と将来とまとめました。

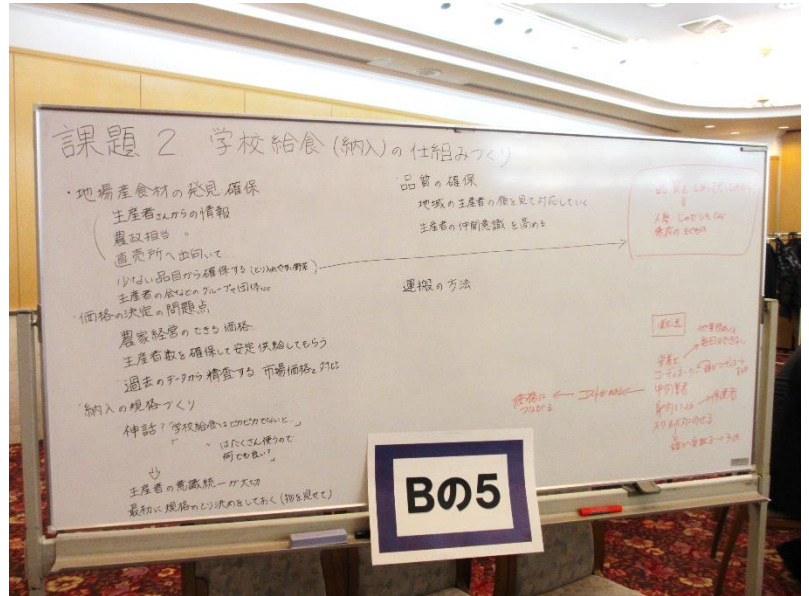


**Bの4**

Bの4では、地場食材が学校給食に活用する意義、食材の安全性、異物混入、価格等の具体的な課題を話し合う中で、お互いを理解すること、地産地消コーディネーターの重要性を確認しました。



Bの5



Bの5では、学校給食(納入)の仕組みについて、地場産食材の発見確保、価格、納入の規格、品質の確保などの具体的な課題を、現場の状況や事例をもとに改善策を話し合いました。

8班の発表を受け、コーディネーターの金丸弘美氏、アドバイザーとして、山際博美氏、地産地消コーディネーターとしてご登録いただいている毛賀澤明宏氏より、感想のコメントをいただきました。



食ジャーナリスト  
金丸弘美氏



(株)山際食彩工房 代表  
山際博美氏



(株)産直新聞社 代表  
毛賀澤明宏氏



## 第2日目 1月15日(金)

9:15 朝日村立朝日小学校 訪問(2階 多目的室)

①ご挨拶・食育活動の取組み

田野口さつき 校長先生

②現地セミナー

・授業見学「2年生 味噌づくり」(2階 家庭科室)

・給食室の見学(1階)

・朝日村の取組み

朝日村教育委員会 課長補佐

清沢光寿氏

朝日村産業振興課 課長補佐

上條浩充氏

・学校給食への地場産物利用の取組み

朝日小学校 栄養教諭

杉木悦子先生

朝日村女性農業者担い手協議会

中村寧生氏

・全体質疑応答

12:10～ 給食配膳(参観)・各クラスに分かれて会食

13:30 学校出発

13:40 ファーマーズガーデンやまがた(直売所)訪問・見学

15:00 JR松本駅着



田野口校長先生より、朝日小学校の食育活動の取組みについてお話をお聞きました。



調理員さん手作りの飾り



1階給食室の様子

授業見学（2年生のみそづくり）



「こぶしの会」の皆さまが、熱心に、子ども達に、味噌作りを教えています。



朝日村教育委員会  
課長補佐 清沢 氏



朝日村産業振興課  
課長補佐 上條氏



朝日小学校  
栄養教諭 杉木悦子 氏



朝日小学校の学校給食の地場食材を担う  
朝日村女性農業者担い手協議会  
中村 寧生 氏



12:10～給食の準備



1月15日(金)の献立  
ごはん、みぞれ汁、あさひっこグラタン、  
のり酢あえ、りんご、牛乳

※地域食材(朝日村産)…お米、大根、にんじん、  
ねぎ、大豆、長いも、かぼちゃ、にんにく、白菜、ビーツ



ファーマーズガーデンやまがた 訪問

# 平成27年度地産地消コーディネーター育成研修会 参加者アンケート（集計）

※主な意見をまとめました。

## ■ 今回の研修会の内容について

### （1）非常に満足（18）

- コーディネーターの役割、必要性が良く理解できた。
- 他県、市町村における地産地消の取組やコーディネーターの取組事例を聞くことが出来た。
- 担い手協議会の方のお話、感動した。
- 先進事例の勉強が出来た。また全国各地から同じ志をもった人が集まるので、それぞれの地域で抱える課題がわかり、解決までの道も早くなる。研修後も交流が深まり、連携がとれやすい。
- 現場の学校に行き、児童と交流できたのは貴重な経験だった。
- 他市町村の取組や方法が聞けて、自校にも取り入れられる、取り入れていきたいと感じることがたくさんあった。
- 長野県の農産物をはじめ、加工品等の素晴らしさを知って理解できたことが、とても良かった。これを子ども達へ伝えたい。
- 生産現場と学校給食センターとの相互理解の擦り合わせで悩んでいた。根気が必要だと思うが、皆さんの取り組みを参考にしていきたい。
- 地産地消コーディネーターとして活動した中で、課題として感じていたことに対する解決のヒントをいただくことが出来た。また、課題の整理をすることが出来た。
- 全国各地で、食育に関わる方々とお話することができた。
- 全国各地のいろいろな立場の方々のお話をお聞きできたり、情報交換したりすることができた。
- 生産者の立場や、現場（給食）と生産者の間に立つコーディネーターの立場から、行政の立場からと、様々な立場から地産地消を推進するための課題や効果について話が聞けて有意義だった。
- 手間がかかることから、なかなか地産地消が進んでいない。具体的に行っている学校関係者や農家の経験を聞くことができ、地産地消推進に参考になった。

### （2）満足（22）

- 美味しい給食が食べることができた。
- 学校給食を中心として、地産地消の手法や概念を学ぶことが出来た。
- コーディネーターの役割や重要性を再認識できた。
- 話を聞けばきくほど、コーディネーターは難しいと思った。
- 生産現場から学校に届けられるまで、色々と解決する必要がある。社会全体で動かないといけない。
- 課題を抱えながらも、どうやって地産地消を進めていけばいいのか、話し合うことができた。
- まだ取り組んでいないことが多々あること、またその方法も様々なことが分かり、参考になった。
- 時間を細かく区切って、様々な立場の方のお話を聞くことが出来た。資料も充実していた。
- 朝日村立朝日小学校の例には感服した。

- 地産地消に関わっている自分の立場を再認識できた。
- 今、抱えている問題点に対しての答えや、自分達のやるべきことが見えてきた。
- 栄養士としてどう取り組んでいけばよいか、同じ立場の先生や別の立場の農業者の方などのお話を聞くことで、見えてくる部分がたくさんあった。
- 行政の人たちと話が出来て良かった。
- 地産地消の動きは30年位前から始まっているのは驚きだった。行政の参加の重要性を感じた。
- 給食一つにこれほどの思いと取り組みがあったこと自体を始めて知った。全ての人に理解を求めるのは難しいかもしれないが、1人でも多くの人に知ってもらえると良いなと思う。

### (3) 普通 (3)

- もう少し時間があれば、もしくは前もっての質問ができるような形があれば、嬉しかった。
- 情報発信の重要性を再認識できたのは良かった。しかし、web上で得られるような知識も多かった。
- それぞれの立場の発信が聞けて良かった。ただ盛りだくさんの内容で、全部吸収するには大変だった。

## ■ 今後、地産地消コーディネーターの育成に向けた研修内容の希望

### ○実践事例の紹介

- 現場で活躍している方の事例の紹介。
- 立ち上げの苦労や課題など、実際かかわった人の話。
- うまくいかなかった事例（動きはあったが、生産者内の調整がとれなかった等）を紹介していただき、その事例に対して、アドバイスをもらう。
- 現場での体験（学校訪問、生産者の畑など）
- 調理に携わる人、栄養教諭、生産者など、実際、現場を動かす人の話をきいてみたい。

### ○各地のコーディネーターの事例

- 地産地消コーディネーターを配置し始めた市区町村の取組事例の紹介等（何も無いところから、どのような人を選んでコーディネーターの活用に至ったか等）
- 学校給食だけでなく、直売所やその他の販路まで幅広くコーディネートしていけるための手法。
- 地産地消コーディネーターの仕事は、情報発信が主となる。その具体的な方法の研修。
- 農家と学校の間をとりもつコーディネーターの役割

### ○広義の地産地消

- 学校給食以外の地産地消を学びたい。
- 学校給食に付加価値をつけていくにはどうすれば良いかなど、掘り下げても良いと思う。
- 若いお母さん方に食育を通じて地産地消を広げて行くこと

## ○関係者との連携、体制づくり

- ・生産者、栄養士、JA等、のそれぞれの実情にあう内容のセミナー。
- ・連携組織の立ち上げの時の事例紹介。
- ・行政、JA、生産者、学校、それぞれの組織で連携するにはどのような調整、打合せが必要か。
- ・学校給食センターの栄養士、出荷者、市役所教育委員会、農政部署担当、JA等、学校給食に関係する立場が集まる合同研修。
- ・行政との協力について。限られた人材、予算をどう使えばよいか。
- ・行政との関わり方。地域全体の思いのある活動とのバランスについて
- ・基本的な活動内容等、コミュニケーションを取るべきところ、大切さ等。

## ○地場産食材の確保、生産、活用方法

- ・より地元のを給食に利用するための工夫、方法を教えて頂ける研修内容。
- ・出荷規格の統一事例
- ・出荷されや野菜がロスなく販売、及び処理できる取組み方法等の事例紹介。

## ○その他

- ・「できない理由」を探すのではなく、どのようにすれば実現できるのか、難しい状況でも実施しているところの発表を聞きたい。
- ・意見交換の場をもう少し長く欲しい。
- ・資格があってもよい。

## ■学校給食における地場食材活用を進めるうえでの課題

### ○安定的な供給体制

- ・大量（1品でも）の食材をいかに調達していくか。
- ・量の安定
- ・価格
- ・発注と納期の期間のずれ
- ・青果業者との棲み分け
- ・価格の問題。実生活が掛かっている中では、一般的な価格より単価が安いのはネック。逆に販路のない作物を買って頂けるのは利点。農家動詞で協力して運搬する等、省力化の努力も必要だと思った。

### ○出荷・納入について

- ・集配サービスの確立。
- ・検品や運搬作業をどうするか。今は、農家が100%ボランティアで行っており、負担が大きい。高齢化も進み、長期的な目では無理が出てくる。
- ・出荷規格が厳しく感じる。学校給食現場での柔軟な対応をお願いしたい。
- ・トレーサビリティ。
- ・無理をせず、その時の旬の野菜をおいしく届けたい。家の仕事のさまたげにならないようにしてほしい。

## ○地場食材の確保

- 生産者の高齢化
- 使用食材の分散と、冬場で地場食材が不足する時期の対応について
- 冬場の地産野菜の確保
- 野菜の保存機関施設の問題
- 加工品等の価格が高い
- 加工所の衛生面
- 大規模センター給食での地産地消の取り組みは課題が多いと思う

## ○学校給食への地場食材活用の理解・協力・共有

- 学校側と農家の折衝方法を考える必要性を強く感じる。
- 供給側と学校（給食）側との意識共有
- 生産者と学校給食現場との交流促進、目標の共有
- 地域によって様子がだいぶ違うと感じた。その地域に応じたやり方で、お互いの納得できるように進めていかなければならない。
- 教育委員会の給食業務への理解の低さ。給食は突発的な食材の提供に対応できないなど、各機関の情報交換が大切だと思った。
- 農家（生産者）の意識の差、学校側（栄養士）さんの意識。
- ほ場と調理室、生産者と栄養士を結び付ける仕組みづくり、持続可能な手法等が課題。

## ○動機づけ、継続性

- 起爆剤となる人材の確保。
- 学校長や栄養士により意欲の差があり、継続的な取り組みとならないケースがあること。
- 地域全体のやる気と熱意と協力が必要。

## ○推進体制やコーディネーターの重要性

- 中間組織、またはコーディネーターの存在は不可欠。できることから始めたい。
- コーディネーター役の確立、体制づくりの強化。
- センターと生産者とをつなぐ仲介者の育成。
- コーディネーター役として、行政、JAの理解が課題。
- 地場産物を給食に活用するための体制ができていないので、体制づくりを行いたい。
- 農家の高齢化もあり、組織づくり、立ち上げが課題。

## ○行政との関わり

- 行政の関係部署を横断的に組織した連携体制がとれるような仕組みが少ない。
- 学校単独だけではなく、行政の力も借りて、横の繋がりを進めていく必要がある。
- 現場と行政の調整。
- 行政の積極性の差が、地域により違う。
- 行政も参加し、細く長く続けることが大切。

## ○生産者の意識・技術の向上、理解促進

- 生産者との話し合いの場づくり。
- 生産者と学校給食現場の規格のすり合わせ。
- 生産者の自覚が大切。子ども達のために、より安全な美味しい野菜を作りたい。
- 生産者の技術や意識の向上。
- 品質の良いものを求められるので、どうしても同じ生産者に頼んでしまうが、学校側からは、いろいろな生産者の野菜納入の希望があり、ギャップを感じる。

## ■自由意見

- とても活気と熱意のあふれた会だった。
- 学校給食における地産地消が、家庭での食育にも波及するようになれば良いと思う。
- 県単位でもこういう研修があると嬉しい。
- ワークショップの班分けはどのような基準であったか。事前にテーマを決めて、自分はどの部分に属するか、適切な場所（時）に参加できれば、もっと有意義であったかと思う。
- 生産者さんやコーディネーターの生の声をお聞きすることができ、とても良かった。
- 様々な立場にしながら、みんな、まず子どもたちを中心にしていた。
- 地産地消を達成させるのは果てしない課題がある。今後もぜひ、このような研修を開催してほしい。
- まだまだ知らないこと、やるべきことが見えて良かった。
- 連携の難しさを感じていたが、ワークショップの中で、何の為に地産地消を進めるのか考える中で、「子どものために」といった共通の理念を持つことで、実現していくのではないかと思った。
- 先進地域に学ぶことは大切だと思った。
- コーディネーター役がいないと、地産地消は進まない。
- 自分では気がつかなかったアイデアをいただき、今後につなげていけそう。最初はあまり欲張らず、取り入れやすいものから少しずつ取り入れていき、長く続けていけるようにしていきたい。
- 根気強く話をして、働きかけることが大事だと感じた。すぐに結果が出ずとも、長い目で取り組みたい。

### 地産地消コーディネーター育成研修会 事務局（主催）

一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構（まちむら交流きこう）

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45 神田金子ビル 5 階

電話：03-4335-1984 FAX：03-5256-5211 E-mail：chisan@kouryu.or.jp